

Aさん

(2009年3月アンケート記入)

留学先について

学校名: Universidad Nacional Autonoma de Mexico (UNAM: メキシコ国立自治大学)

専攻: 哲文学部

課程: 大学院ラテンアメリカ研究コース(文学・文化学) / 交換留学

留学期間: 2008年8月～2009年6月

留学の動機

なぜメキシコに留学しようと思いましたか？なぜ他のスペイン語圏ではなくメキシコを選びましたか？

第一に、日墨研修生・学生等交流計画という奨学金プログラムがあったため。第二に、大学の環境が良いと思ったこと。大学にはヨーロッパ、ラテンアメリカ各国からの留学生も多く、作家たちのシンポジウム、研究者のイベントなども多く開催される。スペイン語圏ラテンアメリカ地域の人文科学研究をするにあたっては、開かれた環境が確保されているように思う。

留学前の準備期間

留学を思い立ってから実際に現地に出発するまでどのくらいの準備期間が必要でしたか？

奨学生として選考されるまでにおよそ半年かかった。出願から出発までに大体1年かかる。

スペイン語の勉強方法

日本でスペイン語をどのようにして勉強しましたか？どの勉強方法が一番効果的だったと思いますか？

学部時代の専攻がスペイン語だった。読むこと以外に意識的な勉強はしていないが、それだけでも日常生活、大学生活には困らない程度のレベルにはなると思う。

情報収集方法

どのようにして情報を得ましたか？

留学経験者の先輩等からアドバイスも受けつつも、主に現地の大学のホームページを通じて情報を得た。

現地の学校への問い合わせ

学校へはどんな手段で連絡を取りましたか？その際に困ったことはありましたか？それをどのように解決しましたか？

日本で在籍している大学の日墨研修生・学生等交流計画を担当している部署が現地の学校と交渉するため、直接連絡をとったことはない。

出願

出願時にどのような書類をどこに提出しましたか？書類を準備する上で苦労したことはありましたか？それをどのように解決しましたか？出願から正式な許可書を受けとるまでに、どのくらい時間がかかりましたか？

奨学金プログラムに参加する際、窓口となる JASSO(日本学生支援機構)に書類を提出した。日本語で A4・30-40枚程度あり、またそれらをスペイン語に翻訳しなければならなかった。履歴書、戸籍抄本、志望動機、研究計画、推薦書などを翻訳しなければならなかったため、結構苦労した。スペイン語を母国語とする友人たちの手を借りて、どうにか提出することができた。書類の提出から選抜までおよそ半年かかる。

出願・入学資格

現地で入学試験を受けましたか？どのような教科の試験を受けましたか？

現地での試験は特に受けていない。

滞在許可の取得(日本での取得と現地での状況)

どのような滞在許可をどのような方法で取得しましたか？

入国前日本で取得した。

申請時に提出を求められた書類にはどのようなものがありましたか？申請料はいくらでしたか？申請から取得までどのくらいの日数がかかりましたか？

学内の日墨研修生・学生等交流計画の担当部署が全て代行してくれる。申請料などは特にかからない。

保険・医療・予防接種

どのような保険に入っていましたか？保険料はいくら払いましたか？留学先が指定した保険に入りましたか？日本でどのような予防接種を受けましたか？

日墨研修生・学生等交流計画の奨学生にはメキシコの医療保険が無料についているが、より広くカバーするため、日本の保険会社の日本人留学生向け海外保険に加入した。1年間で10万円程度。予防接種に関しては、A型B型肝炎、狂犬病等の予防接種を受けておくと安心である。現地の病院でも受けることができる。

学校生活

現地の授業と日本の学校(大学)の授業の進め方に違いはありましたか？教授・先生の教え方や授業内容に満足していましたか？

ラテンアメリカ研究の本場であるため、学生数・研究者数ともに多い。カリキュラムもしっかりしている。いろいろなタイプの教官がいて、大いに刺激をうけた。授業中の議論は活発で、はじめは戸惑った。授業内容に関しては、おおむね充実していて満足できるものだった。

授業の準備はどのようにされましたか？予習・復習にどの程度時間をかけましたか？日本で学んだ語学力は充分でしたか？

ゼミ形式の授業の準備は1コマあたり最低でも5-6時間かかる。教材の分量が多い場合、2,3日をその課題のために割かなければならないこともあった。課題はもとより、授業での発表もメキシコ人学生と同じ分量を要求されるため、その際には1ヶ月程度、その準備に割かなければならない。日本で学んだ語学力が十分であったかどうかは心もとないが、授業を理解し、与えられた課題を乗り越えられる程度には何とかなっていたと思う。

授業以外に勉強する際、どんな場所を利用しましたか？学校の施設(図書館、コンピュータールーム、カフェテリアなど)は充実していましたか？

勉強する場所は、大学の中心から少し離れた研究センター等の図書館が多かった。静かで、蔵書も充実していたし、非常に快適だった。施設に関して、特に不便は感じなかった。

試験はどのように行われましたか？試験対策はどのようにされましたか？

授業評価は主にレポートによるため、試験を受けたことはない。

プレゼンテーションスキルやレポート(エッセイ)作成の際の文法チェックなどの語学サポートは大学で用意されていましたか？用意されていない場合は、どのように対応していましたか？

語学サポートが大学にあったかどうかわからない。発表用原稿、レポートなどは、事前にこちらの友人らにチェックしてもらっていた。

学校全体やクラスで、留学生の割合はどのくらいでしたか？留学生の中で、日本人の割合はどのくらいでしたか？

大学が大規模なので、どの学部にも何割程度の留学生がいるのかは不明である。私の所属していたコースには、長期・短期あわせて2割程度の留学生がいた。主に他のラテンアメリカ諸国からの留学生なので、語学面では私のような問題はない。日本人留学生は全体から見ればごくわずかで、哲文学部全体で20名程度で

はないだろうか。同じ授業に2人以上の日本人がいることはごく稀だと思う。

クラス外の活動(クラブ、サークルなど)に参加しましたか？どのような活動をしましたか？

何度か映画上映会や文化イベントに参加させてもらった。私自身がイベントの企画を立てることはなかったが、課外でも授業と同じくらい有意義な体験ができたと思う。

現地の学生とどのようにして交流を深めることができましたか？大変だったことはありましたか？

授業で一緒になった学生たちと自然に仲良くなれた。人付き合いに関して、メキシコは比較的楽な国だと思う。はじめに誰か友人ができれば、その輪が自然と大きくなっていくので、あまり淋しい思いをすることはなかった。特にトラブルもなく、有意義な時間を過ごしている。

日本人留学生とどのように接していましたか？大変だったことはありましたか？

困ったときに相談に乗ってもらったり、病気のときに助け合ったり、それなりによい関係が保てている。

他国の留学生とどのように接していましたか？大変だったことはありましたか？指導教官とのやりとりで大変だったことなどはありましたか？

スペイン語を母国語としているかどうかにかかわらず、留学生として同じ境遇に置かれているので、非常によい関係が築けた。特に大学の授業の話など、非常に相談しやすかった。日ごろ付き合うのは、日本人留学生ではなく他国からの留学生が多いような気がする。

日本で得ていた情報と食い違っていたところはありましたか？

特になし。

宿泊施設

到着後初めに選んだ宿泊施設は何でしたか？どのようにして宿泊施設を探しましたか？

はじめに日墨研修生・学生等交流計画の研修生のために用意されたホテルに5日間ほど滞在し、大学が配布している住居リスト等を参考に、宿泊先を探した。40人が一度に動くため、住居の確保が大変だった。選んだ場所は多くの外国人留学生が集まる下宿だった。ラテンアメリカやヨーロッパの学生とよい時間が過ごせた。

トラブルはありましたか？その際、どのように対処しましたか？

生活リズムの違いから、音に関するトラブルが多かった。どのようなレベルの問題であれ、大方話し合いで互いの納得するような解決法が見つかったため、これといったストレスは感じずに済んだ。

現地の食事情

普段はどのように食事をされましたか？現地の食事・食材で苦労したことはありましたか？日本の食材を手に入れることはできましたか？

朝晩は自炊をすることが多く、昼は大学、またはその近くの食堂で済ませることが多かった。メキシコの食事は油や唐辛子を多く使うため、慣れないうちは少々つらい。ただ、メキシコシティには日本食レストランや、日本食材店も数多く存在するので、食に関しては各々の工夫次第で問題なく過ごせる。

留学費用・お金の送金方法・管理方法など

学費(+諸経費)はいくらでしたか？またどのような支払方法が便利でしたか？

日墨研修生・学生等交流計画による奨学金で賄われていたので、学費はかからなかった。

学費以外の生活費(住居費、食費、光熱費、教養・娯楽費など)は？1か月または留学期間全体の金額を教えてください。

生活費は住居費、食費、娯楽費などを含めて1ヶ月およそ7,000ペソ(2009年3月現在5万円程度)である。休暇中に旅行をしようとするともう少しかかる。

お金をどのように管理していましたか？日本からの送金が必要な際、どのように送金してもらいましたか？

メキシコ国家科学技術審議会 (CONACYT) から現地の銀行カードが渡されたので、生活費はそこから引き出していた。その他、日本の銀行の国際キャッシュカード、クレジットカード等を作っておいて、必要なときはそこから引き出せるようにしておいた。

医療

現地で病院にかかられたことはありますか？大学内の医務室や付属病院で医療サービスを受けることは可能でしたか？

風邪の際、日本の保険会社と提携している病院にかかった。大学の保健センター、医学部、歯学部などで医療サービスを受けることも可能である。

現地での各種相談先 / 支援組織

相談先の案内は事前に知らされていましたが？学校内・学校外で問題があったとき、誰に相談しましたか？住居などについて支援を受けられるような学生互助会(自治会)などがありましたか？その支援を受けましたか？

履修、成績評価などで問題があった際には、全て個人で対応しなければならない。奨学金を給付している機関 (CONACYT) は交渉相手であって、相談できる相手ではなかった。大学も組織として巨大であるため、何か起こっても、一人で学内を歩き回って問題を解決するしかない。一方で、大学が提供していた住居紹介サービスは役に立った。

治安

現地の危険地帯情報をどのようにして収集しましたか？現地でどのような防犯対策をしていましたか？盗難などを含む犯罪に巻き込まれたことはありましたか？その際どのように対処しましたか？

基本的には現地の口コミを通じて治安情報を得た。ただ、市内のどこにいても盗難や犯罪被害にあう可能性がゼロではないため、最低限の注意は必要である。具体的には、必要なもの以外は持ち歩かない、周囲に注意して歩く、夜間の一人歩きはなるべく避ける、など。

通信関連

パソコン、携帯電話、インターネットなどの現地での利用はいかがでしたか？

日本と比べるとやや不便だが、通信環境は悪くない。インターネット、携帯電話はそれなりに普及している様子。携帯電話会社によってはまだ不具合が多いので、現地の評判を聞いて会社を選んだほうがよい。

帰国後の進路

現在の所属をお知らせ下さい。

東京外国語大学大学院地域文化研究科 博士前期課程

あなたの留学経験は現在の仕事・学業にどのようにいかされていますか？

まだ研修が終わっていない。

後輩へのアドバイス

これまでの留学準備と留学生生活を振り返って、「日本にいる間にしておけば良かった」と思うことはありますか？

自分の研究計画をそれなりに立てておけば、特に問題はないように思う。

留学生を送る際の注意点と、これから留学を考えている後輩への助言をお願いいたします。

こちらに来てから計画の修正を余儀なくされることも多いので、とにかく心に余裕を持って臨むことが重要。